

第5回 県有施設・県出資団体等調査特別委員会資料

公の施設等について
～個別施設の現状と課題、その対応方針～

茨城空港駐車場（営業戦略部）

令和5年12月21日（木）

○施設名 茨城空港駐車場（トヨタレンタリース 茨城空港駐車場）

1 現状

(1) 施設の概要

- 茨城空港駐車場は、茨城空港の開港に併せ、平成 22 年 3 月に空港ターミナル前に整備した駐車場である。

所在地	小美玉市与沢 1603 番 15 外
開業年月	平成 22 年 3 月
施設概要	面積約 5.4ha、アスファルト舗装
設置理由	茨城空港における自動車の駐車の手便を図り、茨城空港の利便性向上及び利用促進に寄与するため
定員	1,318 台
利用料金	無料

(2) 管理手法 ※令和 5 年 7 月 1 日時点

- 管理運営は直営で実施しており、現地における主たる業務を（公財）茨城県開発公社に委託（常勤 3 人体制）している。
- なお、茨城空港は国管理空港であり、かつ航空自衛隊百里基地との共用空港であるため、空港駐車場の管理にあたり、国（国土交通省航空局、防衛省航空自衛隊百里基地）との密接な連携のもとで、適切な管理が求められていることから、指定管理者制度の導入は行っていない。

(3) 利用状況

- 茨城空港駐車場の駐車台数は、開港当初と比べて増加しており、コロナ禍の 2 年間（令和 2～3 年度）は大きく減少したものの、令和 4 年度は旅客数の回復に伴い、ピーク時（令和元年度）の 90.1%であった。

【夜間駐車台数の推移】※臨時駐車場への駐車台数を含む

(単位：台)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1 (ピーク)	R2	R3	R4	R4/ピーク
駐車台数	291,344	291,019	316,016	366,691	385,844	389,157	158,616	194,898	350,672	90.1%

【茨城空港旅客数の推移】

(単位：人)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1 (ピーク)	R2	R3	R4	R4/ピーク
旅客数	538,215	554,350	612,316	680,670	760,402	776,002	208,570	279,745	596,536	76.9%

(4) 運営状況

- 歳出の推移については、駐車場の設備更新等に伴い平成30年度及び令和3年度が一時的に増加したほか、エネルギー価格高騰に伴い電気料が増加しているため、最近3年間は一時経費を除いたベースで概ね26百万円前後となっている。

【歳出の推移】

(単位：千円)

年度	歳出計	うち			主な事業内容
		人件費	維持管理費	事業費	
H26	29,096	6,804	22,292	-	
H27	25,509	5,363	20,146	-	
H28	20,279	5,640	14,639	-	
H29	24,657	7,070	17,587	-	
H30	56,248	6,526	49,722	-	監視カメラシステム更新工事(15,660)、外周道路舗装補修工事(15,131)
R1	25,351	6,516	18,835	-	
R2	25,138	6,733	18,405	-	
R3	33,836	6,854	26,982	-	振動センサー更新(8,035)
R4	26,800	7,190	19,610	-	
平均	29,657	6,522	23,135	-	

【大規模修繕の推移】（10,000 千円以上の修繕を記載）

- 駐車場内の監視カメラシステムや外周道路の経年劣化（耐用年数超過）に対応するため、平成 30 年度に大規模な更新・補修工事を実施したところである。
- 今後も、劣化の進行による同種の工事が想定される。

（単位：千円）

年度	修繕実績額	修繕内容
H26	-	
H27	-	
H28	-	
H29	-	
H30	30,791	監視カメラシステム更新工事（15,660）、外周道路舗装補修工事（15,131）
R1	-	
R2	-	
R3	-	
R4	-	
計	30,791	

（5）周辺エリアの動向

- 平成 26 年 7 月に小美玉市が、空のえき「そ・ら・ら」を開業し、年間来場者数 40 万人を超える中核的な地域振興の拠点施設となっている。
- このため、県では、イベント開催時をはじめ、相互の来場者の周遊を促進し、交流拡大による本地域の活性化を図っている。

（6）議会からの提言や外部有機者等からの意見 等

- 外部有識者を交え、令和 2 年度に実施した「茨城空港の今後の在り方に関する調査研究委員会」では、コロナ禍前の繁忙期において駐車場が逼迫していた状況を踏まえ、「航空需要回復後のアンケート調査等も実施した上で、『有料化』、『予約制』、『二次交通の更なる充実』、『駐車場の立体化』といった幅広い選択肢の中から、より利用者利便に資するサービスを選択できるよう、検討を進める必要がある。」との報告があった。

2 課題

- 茨城空港駐車場は、設置から13年が経過し、設備の経年劣化の状況を踏まえながら、更新工事等を行っていく必要があるとともに、最近のエネルギー価格の高騰により、電気料の更なる負担増が懸念されるため、維持管理費の大幅な削減は難しい。
- また、コロナ禍前の繁忙期には駐車場が逼迫していたことから、今後の就航路線の拡大や旅客数の動向を踏まえながら、次なる方策を検討していく必要がある。

3 対応方針

現所有者	今後、想定される所有者	今後の取組方針（案）	該当の有無
県	県	現行の管理手法での施設運営の合理化など	○
		民間活力の導入による運営改善（施設リニューアル、P-PFI等）	
	市町村	譲渡・譲与	
	民間	譲渡	
	—	廃止・休止	

【方針】

- 当面、現行での施設運営により合理化を図る。
- なお、今後、国が空港経営改革の中で進める国管理空港の民間委託の動向を踏まえながら、将来的に適切な管理手法を検討していく必要がある。

【理由】

- 駐車場利用者アンケート（R2.8月）では、有料予約制サービスの導入について肯定的な回答が約2割となる一方で、有料化に反対する声や、有料化に対する付加価値の提供を求める声も見られた。
- 中国路線の運休が続くなど、茨城空港の航空需要回復は道半ばであり、臨時駐車場も含めた茨城空港駐車場の収容台数には比較的余裕があること、また、空港保安警備の観点で適切な管理が求められていることから、引き続き県において運営を継続し、照明のLED化などによる経費削減により合理化に取り組んでいく。

公の施設等に係る運営評価等調書

施設名	茨城空港駐車場	所管課	営業戦略部空港対策課
-----	---------	-----	------------

1 施設概要

所在地	小美玉市与沢1603番15外	整備年月	平成22年3月
設置の根拠法令等	茨城空港駐車場の設置及び管理に関する条例		
設置目的	茨城空港における自動車の駐車の利用を図り、茨城空港の利便性向上及び利用促進に寄与するため		
事業内容	駐車場の管理運営		
施設内容	面積：約5.4ha 収容台数：1,318台（第1駐車場 682台、第2駐車場 636台）		

2 管理者

(令和5年7月1日現在)

管理区分	直営（現地業務を委託）	管理者名	茨城県（茨城県開発公社）
体制	3人内訳	常勤職員	3人

3 利用状況

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
夜間駐車台数 (台)	目標値	-	-	-	-	-
	実績	385,844	389,157	158,616	194,898	350,672

※臨時駐車場への駐車台数を含む

4 施設運営に係る事業費

(千円)

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
収入	指定管理料	-	-	-	-	-
	使用料収入	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-
	合計①	0	0	0	0	0
支出	人件費	6,526	6,516	6,733	6,854	7,190
	管理運営費	49,722	18,835	18,405	26,982	19,610
	その他	0	0	0	0	0
	合計②	56,248	25,351	25,138	33,836	26,800
収支(①-②)		-	-	-	-	-

(千円)

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
大規模修繕費	30,791	0	0	0	0

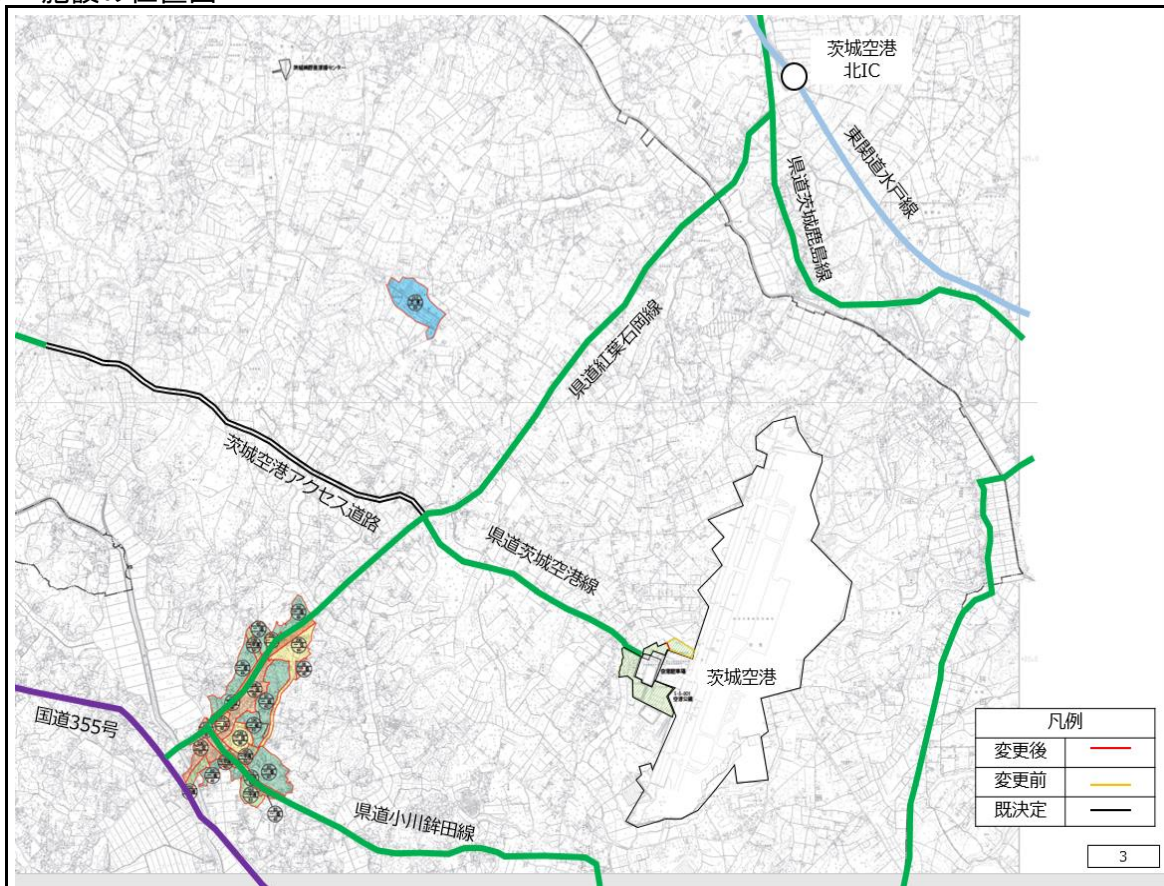
※10,000千円以上の修繕費

5 運営上の課題と対応

課題	対応
<p>○ 茨城空港駐車場は、設置から13年が経過し、設備の経年劣化の状況を踏まえながら、更新工事等を行っていく必要があるとともに、最近のエネルギー価格の高騰により、電気料の更なる負担増が懸念されるため、維持管理費の大幅な削減は難しい。</p> <p>○ また、コロナ禍前の繁忙期には駐車場が逼迫していたことから、今後の就航路線の拡大や旅客数の動向を踏まえながら、次なる方策を検討していく必要がある。</p>	<p>○ 駐車場利用者アンケート（R2.8月）では、有料予約制サービスの導入について肯定的な回答が約2割となる一方で、有料化に反対する声や、有料化に対する付加価値の提供を求める声も見られた。</p> <p>○ 中国路線の運休が続くなど、茨城空港の航空需要回復は道半ばであり、臨時駐車場も含めた茨城空港駐車場の収容台数には比較的余裕があること、また、空港保安警備の観点で適切な管理が求められていることから、引き続き県において運営を継続し、照明のLED化などによる経費削減により合理化に取り組んでいく。</p>

※長寿命化の推進、資産総量の適正化、資産の有効活用の観点から記載すること。

1 施設の位置図



2 施設の写真



3 施設の配置図（平面図）

